

国語

(2023)

- (注意事項)
- 1 問題文は15ページあります。
 - 2 解答は解答用紙の所定欄に記入してください。下書きは、問題冊子の余白を利用してください。ただし、回収はしませんので採点の対象とはなりません。
 - 3 解答は一部記述を含むマークセンス方式となっていますので、解答用紙の注意事項をよく読み解答してください。
 - 4 受験番号・氏名・フリガナは、監督者の指示に従って、解答用紙の所定欄に丁寧に記入してください。
 - 5 解答用紙にマークセンス方式の受験番号欄があります。受験番号をマークする際は濃く丁寧にぬってください。
 - 6 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

第一問 次の文章は、仏教民俗学者の五来重が一九七二年に発表したものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

死後の世界は「ある」か、という問いにたいしてたいの人は「ない」とこたえるだろう。しかしそれは「ある」とこたえれば近代人の沽券にかかわる、という強がりであって、ほんとうは何程かは「何かありそうだ」といううしろめたさはのこっている。これは肉親を失った経験のある人にとつてはなおさらであり、これあるが故に、現在無用の長物のような大伽藍やお寺が繁昌しているのだ。一体このうしろめたさは何だろうか。

実はこのように靈魂や死後の世界は、認識できないから存在しない、と考える一面と、それでは安心できない、という一面と、この両面をもつのが人間というものである。したがって死後の世界を問うことは、人間とは何か、生とは何か、という根源的な問いを問いかけるのとおなじことなのである。

生と死とは光と影にたとえられる。この絶対に矛盾する二つの概念は実によく似ているからである。光は影によつてはじめてとらえられることは、絵や写真をしたことのあるものならずわかる。生も死に直面し、死と対決しなければ実感することはできない。したがって死後の世界を考えるとということとは、生を理解し、人生の意義をあきらかにすることにほかならない。

古代人にとつて、死後の世界は現世の延長であり、現世の投影であった。したがって現世で善をすれば、死後は幸福がえられるし、悪をすれば不幸になると単純に考えた。すなわち死後と現世の因果律が道德的規範、すなわち律法の成立する条件であった。その法律にそむく制裁——それを因果とか応報とかいったのだが——が、地獄という死後の世界の苦しみであった。

近世になるとこの因果律は「勸善懲悪」となつて、現世の悪行は死後をまたずに現世で報いをうけ、現世の善行は現世の幸福につながるという意味になる。いまでも義理人情を語つて大衆を感動させる講談や浪曲などの大衆文学・大衆演芸は、この勸善懲悪なしには成立しない。ここに大衆の正義感があるのだが、現世だけではこの因果律はしばしばそのとおりにならないことがある。いったい、それをどうしたらよいのか。

われわれはしばしば悪人が世にはびこり、善人がいつまでも

X

があがらぬ現実を見る。したがって大衆の正義が成立するためには、死後

まで延長された勸善懲悪、すなわち因果応報が必要になってくる。もしそれがなければ現代の世相のように、恥しらずの欺瞞やヒッピーやニヒリズムが横行するようになる。こうした道德における善と幸福の不一致を「実践理性の二律背反」といい、その二律背反を解決して、善がむくいられるためには、「靈魂の不滅」すなわち死後の世界がなければならぬ、と主張したのは哲学者カントであった。近代思想では目に見えないもの、耳にきこえないもの、手でふれられないもの、その他の感覚でとらえられないものは存在しない。したがって靈魂や来世や神の存在を否定する科学主義

があつたればこそ、月旅行すら可能にする現代の物質文明が花ひらいたのである。そうした近代思想の先頭に立ったカントも、道德^{II}社会秩序が正しく成り立ち、人類の自由と平和が保証されるためには、科学的常識の否定する靈魂や死後の世界が、存在し、なければならぬと主張したのである。

カントは近代的な科学主義に立っていたから、死後の世界が存在する、という断定と証明をする代わりに、それが「存在しなければならぬ」——「存在するはずだ」というにとどめた。そしてこの死後の世界の存在の「要請」⁽⁶⁾は、カント哲学の矛盾とも弱点ともいわれるのだが、実は庶民はそれが存在すると考え、死者の冥福を祈る仏教的供養や追善をし、死者の声をイタコに聞いたりしている。庶民のほうはカントのようなまわりくどいことを言わずに、直観的に死後の世界の存在を肌で感じているのだといえる。

現在のわれわれのゆたかな物質文明は、たしかに靈魂を否定し、宗教を軽侮し、イタコを迷信視する科学的常識の勝利であろう。しかし同時にこの科学的常識は、神をおそれぬ大量殺人兵器や、怨念をおそれぬ環境公害や交通事故死を再生産する。それよりもっともおそろしいのは「人生は現在の自己だけ」という **Y** 主義、断絶主義、自己主義の精神的頹廢⁽⁷⁾である。史上最大の物質文明の繁栄をほこるアメリカの悲劇は、外なるベトナム戦争より、内なる精神的頹廢だという声があがっている。われわれはその轍⁽⁷⁾をふまないだろうか。

われわれは一応、近代人の科学的常識の衣をぬいで、古代人の死後の世界観を見てみよう。タイムトラベルやタイムトンネルを通ったつもりで、一千年あるいは二千年前の日本人にもどるのである。そうすると死後の世界は厳然と存在するが、それは闇黒の「やみ」の世界で「よみの国」とよばれ、中国の地下の「黄泉」という文字をあてて、黄泉国と書かれた。しかし日本人の「よみの国」は「死出の山路」などとよばれる幾山河を越えた彼方の暗い谷間で、この地上の延長線上にあつた。死者の靈は生前におかした罪の軽重に応じて、針を立てたようなかわしい山を越え、血の池のような害獣毒蛇のすむ川をわたり、飢と渴きをしのぶ苦痛をなめなければならぬ。そのために死者は死装束に、白の帷子・草鞋・脚絆をつけ、笠と杖をもち、六文銭と五穀の種を入れた頭陀袋を首にかけるといふ旅姿で、野辺に送られた。

このような古代人の死後観はだいたい世界共通で、この地上と連続した遠方の山や谷、あるいは海上の島などに死者の靈のあつまる世界があると考えられていた。またそのような世界を垂直的な上下関係で、地下としたり天上とする信仰もあつて、これらを総称して「他界」というのが、宗教学上の用語になつている。他界 (Das Jenseit) ということば、原始人が「遠い彼方」という表現をとるからであるが、日本でも俗に死んだということば、「彼方むいて行つた」といったり「塚山」という言葉があつたりする。安土などもその変化だろうと思う。

山の中に他界を想定するのを「山中他界」というが、これは古代には庶民は死者を山に葬つた (風葬・野葬・林葬) ことからおこつたものと考え

られる。野辺の送りを「山行き」といい、墓を山（陵）というのはその名残り、葬られた靈魂は死体からぬけ出して「死出の山路」をこえながら、長い苦しい旅をするものと古代の庶民は信じていた。「率土が浜」の彼方に海をへだててそびえる恐山などは、まさしく他界の幻想をよぶのにふさわしく、死霊の山となり、死霊に会ってその言葉を聞くイタコ市がひらかれるようになる。

このような他界信仰の山は日本全国いたるところにあったのだが、地獄谷とか賽の河原の地名をもつ山は、たしかに他界信仰のあった証拠といってよいただろう。立山も白山もそれがあり、立山の地獄谷に陸奥の率土が浜（外が浜）なる獵師の亡霊が来ていた話は、世阿弥の謡曲「善知鳥」でよく知られている。しかもこの立山地獄の物語は平安時代の『本朝法華験記』や『今昔物語』に見えて、古代人にひろく信じられていたことがわかる。熊野詣も古代末期から中世にかけて繁昌したが、熊野路の山中では死んだ肉親の亡霊に会えるといわれた。いまでも年寄りのなかには、善光寺の内陣の地下の戒壇めぐりの闇のなかで、死んだ子供に会えると信じている者もいる。死者の霊に会えるのはけっして恐山だけではなく、古代にはいたるところに、そうした山があったのである。

古代の日本人は、死後の世界を山ばかりでなく、海の彼方の国または島に想定していたが、これも水葬という古代の葬制の反映であろう。古代神話ではこれを「常世」とよんで、死者のゆく世界であるとともに、幻想的な楽土とするようになった。沖縄では海の彼方にニライカナイとよぶ楽土があり、お盆には祖先の霊がそこからかえって来ると信じられていた。日本の伝説にあらわれる龍宮も「常世」の変形で、常世では年をとらないように、龍宮では時が停止して、龍宮人は年をとらないのである。仏教が入って海上の常世が、観世音菩薩の住むポタラカ（補陀落）という島にすりかえられ、水葬は死者を補陀落へ送ることだといわれた。これが有名な熊野那智や室戸岬などで行なわれた「補陀落渡海」で、生きながらにして船に食糧をのせて渡海しようとする乱暴な信仰者もあらわれた。

日本に凶作や災害がうちつづくと、庶民のあいだにミロク（弥勒・身禄・命禄）という私年号をつかう風習が、室町時代にたびたび見られる。これも古代の「常世」や沖縄のニライカナイのような「ミロクの浄土」から、祖先の霊が世直しに、米や宝をもつてくるという信仰があつて、ミロク船を宝船におきかえ、七福神がやってくるという信仰に変形した。

このように他界は、暗黒の世界からしだいに楽土、あるいは浄土に変わってゆく傾向がある。庶民は貴族階級のように、末法とか末世などという**Z** 的でなく、死後についても楽天的だったのである。しかしそれには条件があつて、生前の罪をいろいろの形でほろぼしておかなければならない。生きているあいだに橋をかけたたり、道をつくつたりする社会的作善にくわわることも、死んで地獄におちない「罪ほろぼし」であつた。行基菩薩や空也上人のいろいろの社会事業は、そうした庶民の死後の世界観の上に成り立ったものである。

注1 ヒッピー―一九六〇年代のアメリカで、既成の価値観や道徳に反抗した若者たち。

注2 ニヒリズム―既存の価値観や権威を否定する思想や態度。

注3 イタコ―死者の霊を自身に憑依ひょういさせてその言葉を語る巫女。青森県恐山のイタコが有名。

注4 六文銭―一文銭が六枚そろったもので、死者を葬る時、三途の川の渡し賃として棺に納めた。

注5 頭陀袋―僧侶が旅をする時に経や携帯品を入れて首にかける袋。

注6 恐山―青森県下北半島北部の火山。死者の集まる山とされた。

注7 賽の河原―死んだ子供が行くとされた冥途にある河原。

注8 私年号―朝廷で正式に定められた公年号に対して、主として中世以降に民間で作られた年号。ミロクは十六世紀に関東で用いられた。

― 傍線部(1)「近代人の沽券にかかわる」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 近代人と自負している自分の体面にさしつかえる
- 2 近代人であれば当然持っている考え方を否定する
- 3 近代人としての存在意義が問い直される
- 4 近代人としての合理的な生き方に関係する
- 5 近代人の典型である自分の立場が危うくなる

二 傍線部(2)「無用の長物」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 実は大切だが、一見すると役に立たないように見えるもの
- 2 あっても役に立たず、かえって邪魔になるもの
- 3 かつては役に立っていたのに、今では無意味になったもの
- 4 荘厳で見た目は立派だが、役に立たないもの
- 5 役に立つのに、その価値が忘れられがちなもの

三 傍線部(3)「一体このうしろめたさは何だろうか」とあるが、この問いにかんして、筆者はどのように考えているか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 生と死を光と影にたとえても、絶対に矛盾する二つの概念を理解できないので、人々はもどかしがっていると考えている。
- 2 靈魂や死後の世界の存在をいっさい認めない近代人に対して、たいていの人はそれでは安心できないと反発すると考えている。
- 3 生を理解できなくなってしまうかもしれないので、多くの人々は死後の世界の存在を否定することに不安を覚えると考えている。
- 4 肉親を失った経験がないにもかかわらず、死後の世界を「ある」と考えることに、一部の人はためらいを感じていると考えている。
- 5 死に直面しなければ生の意味はわからないと考えた古代人に対して、近代人の大半はいらだっていると考えている。

四 傍線部(4)「死後と現世の因果律」とは何か、三十字以内で説明しなさい。

※(解答は、マークシート裏面の所定欄をよく確認したうえで、そこに記述すること。)

五 空欄

X

 に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 腕
- 2 うだつ
- 3 火の手
- 4 しぐれ
- 5 血道

六 傍線部(5)「横行する」に近い意味の言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 激化する
- 2 蔓延するまんえん
- 3 放浪する
- 4 繁栄する
- 5 謳歌するおうか

七 傍線部(6)「死後の世界の存在の「要請」」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 カントは、現代の欺瞞やニヒリズムを克服するためには、現代人も死後の世界を肌で感じるべきだと考えた。
- 2 カントは、近代思想に限界が来ることを見越して、死後の世界の存在を信じなければならぬと考えた。
- 3 カントは、現代の物質文明を花ひらかせるためには、死後の世界の存在を否定しなければならぬと考えた。
- 4 カントは、善が報いられて道徳が成立するためには、死後の世界があるという前提がなければならぬと考えた。
- 5 カントは、現代の世相に見られるような問題点が生じることを見越して、死後の世界の存在を証明しようと考えた。

八 空欄 Y に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 啓蒙けいもう
- 2 耽美たんび
- 3 神秘
- 4 瑣末さまつ
- 5 刹那

九 傍線部(7)「その轍をふまないだろうか」とあるが、この場合の「轍をふむ」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 精神的頹廢に陥ったアメリカの問題点を指摘することで相手を怒らせる。
- 2 科学的常識に基づき迷信を退けた物質文明の恩恵をアメリカと同じく享受する。
- 3 史上最大の物質文明の繁栄をほこるアメリカに対して反対の声をあげる。
- 4 靈魂を否定したことで精神的頹廢を招いたアメリカと同じような失敗をする。
- 5 科学的常識を信奉し環境公害や交通事故死を再生産するアメリカに背を向ける。

一〇 傍線部(8)「『今昔物語』」(正式には『今昔物語集』)に収められている説話を素材として書かれた近代の小説とその作者の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1 芥川龍之介『羅生門』

2 二葉亭四迷『浮雲』

3 夏目漱石『三四郎』

4 谷崎潤一郎『刺青』

5 樋口一葉『たけくらべ』

一一 空欄 Z に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1 直感

2 煽情せんじょう

3 高踏

4 厭世えんせい

5 常識

一二 次のア〜カについて問題文の内容と合致するものには1、そうではないものには2をそれぞれマークしなさい。

ア 霊魂や神の存在を否定する近代の科学主義は、ゆたかな物質文明をもたらすと同時に精神的頹廢もたらした。

イ 江戸時代になると、現世の悪行は、現世のみならず死後の世界でも応報があると信じられるようになった。

ウ 哲学者のカントは、道徳における善と幸福の不一致を解決したことで近代思想の先頭に立ったと評価された。

エ 死者は山路を越えながら生前におかした罪の軽重に応じて長く苦しい旅をすると、古代人は信じていた。

オ 祖先がミロクの浄土から世直しのためにやって来るといふ信仰が變形して、補陀落渡海が行なわれるようになった。

カ 死後の世界など存在するはずがないと考える一部の古代人は、その代わりに現世において山中他界を想定した。

第二回 次の文章は『狭衣物語』の一節である。主人公の狭衣は名門に生まれた貴公子で、さまざまな才能に恵まれている。あるとき、狭衣が帝の求めに応じて笛を吹くと、その音に魅せられた天稚御子が天から降りてきた。天稚御子は狭衣を天に連れて行こうとしたが、帝が狭衣を引き留めた。次の文章はその翌朝、狭衣が妻戸を押し開けるところからはじまる。これを読んで、後の問いに答えなさい。

(1) 寝ぬに明けぬと言ひけん人もうらやましきに、からうじて明けぬる心地すれば、東の渡殿の妻戸を押し開けたまへるに、雨少し降りけるなごりに、菖蒲の雫ばかりにて、空の雨雲晴れて、ほのほの明けゆく山際、春ならねどをかし。ありし楽の声、御子の御ありさまなど思ひ出でられて、恋しうもの心細し。兜率天の内院かと思はましかば留まらざらまし、と思し出で、「即往兜率天上」といふわたりをゆるらかにうち出だしつつ、押し返し「弥勒菩薩」と読み澄ましたまふ。まことにかなしくて、また兜率天の弥勒の迎へや得たまはんずらん、と聞こゆ。折しも、ほととぎすの、ただここにのみ知り顔に立ち返り言語らふを、え聞き過ぐしたまはで、
(6) 夜もすがら物をや思ふほととぎす天の岩戸をあけがたに鳴く

A ほととぎす鳴くにつけてぞ頼まるる語らふ声はそれならねども
とぞ思さ

X 殿など目覚まして聞きたまふに、老いの涙留めがたくて、母宮少しみざり出でたまへり。「などかく夜深くは起きたまへる。五月の空には恐ろしき物のあなるものを」と、御鼻声にさへなりたまひて、「経も高くな読みたまひそ」といみじうゆゆしと思ひきこえたまへれば、「令百由旬内」とこそあんなれ。なでうおどろおどろしきものか参で来ん」とてうち笑ひたまへり。殿も起きたまひて、「この頃ばかり慎みてものしたまへ。歩きなどなしたまひそ。今日より七日ばかりはとりわきたる御祈りせさするなり。このほどは精進にて、同じ心に仏をも念じたてまつりたまへ。親に物思はする、重き罪にてもあんなり」など聞こえたまふ。いでや、長くしもあるまじき身を、いとかくしも思いたること、心苦しうて、「いづちか」など申したまひて、我が御方に渡りたまひぬ。

（『狭衣物語』による）

注1 兜率天の内院か 天稚御子が自分を兜率天の内院に連れていくのか、の意。兜率天は弥勒菩薩の浄土。その内院で弥勒菩薩が説教を行なっており、五十六億七千万年後にこの世に降りて人々を救済するとされたが、はるか先であるため、その前に兜率天に往生することも願われた。

注2 即往兜率天上 、『法華経』の一節。弥勒菩薩のいる兜率天に往生するだろうという意。

注3 殿Ⅱ狭衣の父親、堀川の大臣。

注4 母宮Ⅱ狭衣の母親。先帝の妹なので、「宮」と呼ばれている。

一 傍線部(1)(5)(6)(9)の現代語訳として最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 寝ぬに明けぬと言ひけん人

1 眠りについた直後に夜が明けてしまったと言った人

2 眠りにつくと夜が明けるのに気が付かないと言ったとかいう人

3 眠れないで過ごしているとなかなか夜が明けないと言った人

4 眠ってしまうとあつという間に夜が明けるものだと言った人

5 眠りにつかないうちに夜が明けてしまったと言ったとかいう人

(5) え聞き過ぐしたまはで

1 聞き漏らさないようにして

2 聞き過ぎてしまわないで

3 聞き逃すまいとお考えになり

4 聞き流すことがおできにならず

5 聞き込んでいらっしやっただので

(6) 夜もすがら

1 夜明けに

2 深夜に

3 夜通し

4 その夜

5 夜ごとに

(9) いみじうゆゆし

1 はなはだ無礼だ

2 とても迷惑だ

3 まったく不健康だ

4 少し耳障りだ

5 たいそう不吉だ

二 傍線部(2)「ほのほの明けゆく山際、春ならねどをかし」は、ある文学作品の一節を踏まえている。その作品を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 竹取物語
- 2 枕草子
- 3 蜻蛉日記
- 4 徒然草
- 5 方丈記

三 傍線部(3)「思はましかば留まらざらまし」の解釈として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 思うならば、この人間界にとどまることになるだろう。
- 2 思っていれば、兜率天にはとどまらなかつただろう。
- 3 思ったならば、この人間界にとどまらなかつただろう。
- 4 思うことができれば、兜率天にとどまることになるだろう。
- 5 思うことになれば、きつと宮中にはとどまらないだろう。

四 傍線部(4)「読み澄ましたまふ」、(11)「うち笑ひたまへり」、(12)「聞こえたまふ」の主語を次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。同じものを何度使ってもよい。

- 1 天稚御子
- 2 弥勒菩薩
- 3 狭衣
- 4 殿
- 5 母宮

五 空欄 X に入る言葉を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 らる
- 2 ぬる
- 3 つる
- 4 ける
- 5 るる

六 傍線部(7)「なる」と文法的に同じ意味のものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 いかなる折にかありけん
- 2 旅人のすなる日記といふもの
- 3 あばらなる板敷きに臥す
- 4 ここなるもの取り侍らむ
- 5 かならず身の災ひとなるべし

七 Aの和歌「ほととぎす……」の解釈として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 ほととぎすの声は天に通じるものなので、弥勒菩薩のいる兜率天に両親を往生させてくれるのではないかと考えている。
- 2 ほととぎすの声が法華経を誦する声に似ているので、それを聞くと天稚御子とともに往生できるのではないかと頼みにしている。
- 3 法華経を誦する声とは異なるものの、ほととぎすが帝への思いを天上にいる天稚御子に伝えてくれるのではないかと願っている。
- 4 ほととぎすの声は天稚御子の声と同じではないが、ほととぎすが自分を天上へ導いてくれるのではないかと期待している。
- 5 ほととぎすの声を聞いていると心が澄むので、いずれ兜率天から弥勒菩薩が迎えに来てくれるのではないかと思っている。

八 傍線部(8)「経も高くな読みたまひそ」とあるが、母宮がこのように言ったのはなぜか。その理由について四十字以内で説明しなさい。

※〈解答は、マークシート裏面の所定欄をよく確認したうえで、そこに記述すること。〉

九 傍線部(13)「かくしも思いたる」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 狭衣の親が、狭衣が重病になるのではないかと懸念している。
- 2 狭衣が、自分の命は長くはないだろうと覚悟をしている。
- 3 狭衣の親が、特別な祈禱をさせるなどして狭衣の身を案じている。
- 4 狭衣が、精進生活を送って仏道修行を続けようと思っている。
- 5 狭衣の親が、狭衣に仏道修行を勧めて出家させようと考えている。

一〇 傍線部(14)「いづちか」の解釈として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 どこにいらつしゃるのですか
- 2 どちらにしましょうか
- 3 どこにも行きません
- 4 いくつまで生きられるでしょうか
- 5 どうにもなりません

一一 次は、傍線部(10)「令百由旬内」を含む『法華経』の一節を書き下したものである。これについて(i)(ii)の問いに答えなさい。

我も亦自ら当に是の経を持たん者を擁護して、百由旬の内に諸々の衰患無からしむべし。

注1 我||仏教の守護神である毘沙門天。

注2 是の経||『法華経』。

注3 由旬||古代インドの距離の単位。一由旬は約一一・二キロメートルという。

(i) 傍線部「亦」の読みとして正しいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 やや
- 2 かく
- 3 それ
- 4 また
- 5 さて

(ii) 二重傍線部「当」は再読文字である。次の中から再読文字を一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 雖
- 2 宜
- 3 豈
- 4 焉
- 5 与

第三問 次の一、二の問いに答えなさい。

一 次の傍線部の漢字の読みをひらがな（現代仮名遣い）で解答用紙の所定欄に記しなさい。

(1) 恭しく頭を下げる。

(2) 真摯に受け止める。

(3) 唯々諾々と命令に従う。

二 次の傍線部のカタカナを漢字に直して解答用紙の所定欄に記しなさい。

(1) 時代の推移の中でサビれる。

(2) この規則は四月にソキユウして適用される。

(3) シンシヨウヒツバツを徹底する。